

編集後記

1997年7月1日、香港は前日まで1世紀有半にわたり続いた英国の直轄植民地の地位を離れ、新生香港として新たなスタートを切った。「収回」、「交還」、「回歸」、そして「返還」とその立場の違いから表現は様々であるが、いずれにしても、この日から香港は中華人民共和国香港特別行政区に生まれ変わったのである。

これまでレッセ・フェール政策を基本に、経済的・社会的活力に満ちダイナミックな繁栄を築いてきた香港、かつての本国英国をも凌ぐ1人当たりのGNPを創出してきた香港は、これからの「一国二制度」のもとでいかなる道を歩むことになるのか。世界の金融のハブセンターとして、また年間1,330万TEUのコンテナを取扱う世界最大の貿易拠点として発展してきた香港の今後を、注視していきたい。

さて、目を国内に転ずると、ここでも様々な分野で大きな変化の兆しがみえる。本号冒頭の「物流システムと道路・高速道路」は、陸上輸送におけるトラックと鉄道との役割を比較検討し、トラック輸送および物流システムの構築にとって、高速道路の果たしている機能を様々な角度から俯瞰する研究報告である。これに続く「卸売業における物流課題」は、再び問屋無用論が台頭しかねない流通チャネルが大きく変化し、流通革命の第2ステージにある現状において、多角点的な視点から川中に位置する卸売という業態が生き残るためには、物流、情報の機能がますます重要になると指摘するものである。また、「大手小売業(スーパー業界)における雇用管理の実態と課題」においては、消費者と直接対面している流通チャネルの川下部分にあり、流通全般に対する発言力をさらに強めつつあるスーパー業界が抱える雇用管理問題について、現場の観察に基づいた詳細な分析が加えられている。そして最後の「PETボトルのリサイクル」は、今年4月に施行された容器包装リサイクル法の成立の背景や、PETボトル回収の現状などに触れながら、循環型経済社会への発想の転換が必要ではないかと論じたものである。

(1997年7月、古井)